

災害文化オンライン特別講演会 開会の挨拶

岩手大学地域防災研究センター長 越谷 信

東日本大震災から10年が経過しました。震災翌年、岩手大学に、安全なまちづくりのための地域防災拠点を目指して「岩手大学地域防災研究センター」が開設され、震災後の10年間を被災地とともに歩んできました。この間、大野眞男先生、広田純一先生には、センターの様々な場面で広く貢献していただきました。防災に関して、大野先生はご所属の災害文化部門において、広田先生は防災まちづくり部門において、被災地での実践とともに研究を深められ、私自身大変勉強をさせていただいたことに加え、センターの企画・運営にあたり、広い視野からのご指摘をいただいております。2020年3月に定年退官の時を迎えられたことを記念してご講演をお願いしておりましたが、コロナ感染拡大が深刻になった時期に重なり、残念ながらその時には開催できず、今回災害文化研究会と共同してオンラインで開催することとなりました。

復興の歩みは厳しく、10年という年月を区切りとすることはできません。地震・津波以外に台風・大雨の被害を受け、さらにコロナ禍での避難の在り方など課題はますます増えていっています。このような状況下、大野・広田両先生は、ご退官後も専門的な不断の研究を続けられており、私たちが今回の形で勉強の機会をいただくこと感謝申し上げます。災害文化の発展、また、地域防災力の向上に向けたご講演となることと確信し、楽しみにしております。

両先生を含め本センター災害文化部門に関係する研究者、他大学等の研究者、復興のために活動されている方々のお力添えを得た災害文化研究会には、多くのみなさんに関わっていただいております。連携して、地域防災という災害文化の定着に寄与していきたいと思っております。